五感、ひびく、観動旅
「もっと、もーっと！くまもっと。」

新型コロナウィルスの国内の収束傾向を受けて、熊本県では旅行助成事業「くまもと再発見の旅」を再開。熊本地震（2016）の甚大な被害を受け、復興した熊本城や阿蘇エリアも防災観光拠点として整備が進む。人吉市では令和2年7月豪雨からの1年での復興は「奇跡の復興」として注目を集める。注目の観光スポットを紹介する。

熊本城エリア

熊本城特別公開の再開

2021年10月1日から熊本城特別公開を再開。

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、天守閣への入場制限を行っている。混雑状況によっては、天守閣入場までに待つ場合がある。

復興した熊本城天守

入園料は高校生以上800円、小中学生300円。公開時間は9時～17時（最終入園16時30分）

熊本城公式ホームページ上での入園券の事前購入、団体予約の受付も再開している。

周辺施設の桜の馬場城彩苑観光案内所と熊本城ミュージアムわくわく座も営業中。桜の馬場城彩苑観光案内所は9時～17時半。熊本城ミュージアムわくわく座も9時～17時半（最終入館17時）。問い合わせ先は、熊本城運営センター（観覧に関する問い合わせ）TEL096・223・5011。熊本城総合事務所（その他の問い合わせ）TEL096・352・5900。

南阿蘇エリア

熊本地震の震災遺構（旧阿蘇キャンパス1号館・断層）を公開

2016年4月に発生した熊本地震で甚大な被害を受けた旧東海大学阿蘇キャンパスの校舎と地面に表出した断層が「熊本地震震災ミュージアム」の震災遺構として整備され、2021年8月1日に公開。熊本県では地震の経験や教訓を学び、風化させることなく後世に伝承するとともに、今後の大規模自然災害に向けた防災対応の強化を図ることなどを目的に、県内各地に点在する震災遺構等を巡る回廊形式のフィールドミュージアム「熊本地震　記憶の回廊」の整備を推進。震災ミュージアムの中核拠点となる旧東海大学阿蘇キャンパスには、令和5年度に熊本地震の体験・展示施設がオープンする予定。

震災ミュージアム（東海大学の旧阿蘇キャンパス）

「ONE PIECE熊本復興プロジェクト　麦わらの一味『ヒノ国』復興編」として、考古学者のロビン像が10月9日に設置された。

公開時間は9時～17時（冬季は16時まで）。入場無料。毎週火曜日と年末年始は休館。問い合わせ先は、熊本県観光交流政策課　TEL096・333・2011。

ニコ・ロビン像

人吉エリア

仮設商店街「モゾカタウン」

「モゾカ」とは、人吉球磨言葉で「小さくて可愛い」の意味。「令和2年7月豪雨」で被災した飲食店などの事業者が仮設店舗から復興を目指す。

青井町の「人吉駅前」（23事業所）と相良町の「くまりば」（3事業所）の2カ所にある。買い物や食事などが楽しめる人吉球磨ならではの温かみのある新たな観光交流拠点だ。問い合わせ先は、モゾカタウン事務局　TEL096・622・2111（代表）。

洪水時の水位をマークとして残す（あゆの里）有村政代会長

HASSENBA

モゾカタウン

2021年7月オープン。球磨川を望む人吉球磨の新しいランドマーク「HASSENBA」

球磨川くだり発船場が新たな複合施設「HASSENBA　HITOYOSHI　KUMAGAWA」として生まれ変わった。

施設内にはツアーデスクを設置し、アクティビティの受付の他、熊本初上陸の「九州パンケーキカフェ」や熊本県南地域の物産品を扱う「HITOxKUMA　STORE」、人吉市内をe-bikeで周遊する「人吉はっけんサイクリングツアー」、2階には球磨川と人吉城址の素晴らしい借景を望む開放的なテラスを備えたBarカウンター、JR九州の豪華列車「ななつ星in九州」などを手掛けたデザイナー水戸岡鋭治氏デザインのミーティングルームなど、人吉球磨地域の観光拠点として利用できる。復興デザイン会議が表彰する第3回復興設計賞を受賞した。

球磨川くだりの人気アクティビティをお得に体験出来る「アクティビティ割引キャンペーン」を開催中。問い合わせ先は、HASSENBA（球磨川くだり株式会社）TEL0966・22・5555。

人吉温泉女将の会さくら会

会員の旅館ホテル全てが、令和2年7月豪雨で被災。復興の様子や人吉が元気な様子を伝えるためホームページでの情報発信。写真集も発行した。防災についての講演も行っている。

市内では人吉スカイランタンフェスティバル開催などのイベント実施に協力。歌人や作家として知られる与謝野晶子さんが人吉に訪れたことから会員旅館ホテルで歌碑を設置するなどゆかりの地としてPRしている。

さらにコロナ禍が国内では収束傾向にあることから、市外へのキャラバンやイベントなどに参加するなど誘客活動も開始した。

新阿蘇大橋

国道57号沿いの南阿蘇村立野と、同村河陽をつなぐ全長525m、最大橋脚高97mの橋。2016年の熊本地震で崩落した阿蘇大橋に代わり、2021年3月、元の場所から600m下流に架橋された。歩道も設置され、歩いて渡ることもできる。

また、橋のたもとには展望所（通称「ヨ・ミュール」）もあり、休憩所やトイレ、ジェラートが楽しめるカフェも併設。展望スペースからは、長陽大橋や白川第一橋梁（南阿蘇鉄道）などを眼下に望むことができる。数鹿流崩之碑展望所からは震災遺構の阿蘇大橋（残った橋桁等）を見学できる。問い合わせ先は、南阿蘇村産業観光課　TEL0967・67・1112。

展望所「ヨ・ミュール」

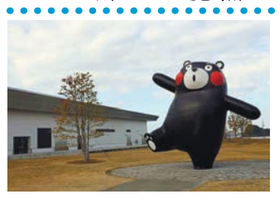
「ヨ・ミュール」からの眺望

熊本の玄関口がリニューアル

くまモンポート八代

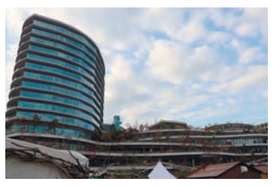
八代港における国際クルーズ船の受け入れ拠点として、2020年3月に完成。くまモンをテーマとした公園が併設。高さ日本一の全長6mのビッグくまモンや54体が並んだくまモン合唱隊、十二支くまモンなど、ここだけのくまモンに出会える。SNSで「映える」スポット。

開園日は土日祝（2022年1月1日、2日は休園）開園時間は9時から17時まで。入園は16時30分まで。入園料は無料（駐車場代も無料）。問い合わせ先は、熊本県土木部河川港湾局港湾課　TEL096・333・2515。


くまモンポート八代　ビッグくまモン

SAKURA MACHI Kumamoto（サクラマチクマモト）

熊本桜町バスターミナルに付随した複合商業施設。商業施設「サクラマチ」のほか、シネマコンプレックス、バスターミナル、熊本城ホール、ホテル、住宅、オフィスビルなどがある。九州産業交通ホールディングス傘下の九州産交ランドマークが運営。


サクラマチクマモト

アミュプラザくまもと　JR熊本駅

2021年4月に大規模複合商業施設「アミュプラザくまもと」を含むJR熊本駅ビルが誕生。ファッションや雑貨の店舗以外にも、レストラン、食品スーパー、映画館、結婚式場、ホテルなどが出店。

JR熊本駅構内の移動も快適になり、新幹線口から市内電車への乗り換えも便利になった。

アミュプラザくまもととJR熊本駅

（公社）熊本県観光連盟
TEL096-382-2660
熊本県観光サイト
もっと、もーっと！くまもっと。
http://kumamoto.guide/

新Go Toトラベル「利用したい」6割

BIGLOBE調査

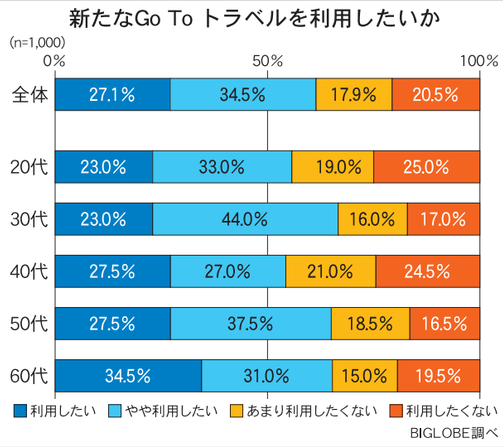
新たなGo Toトラベルを「利用したい」人は6割―。BIGLOBEは「2022年の旅行に関する意識調査」を実施し、同調査でのGo Toトラベルに関する結果を12月16日に発表した。

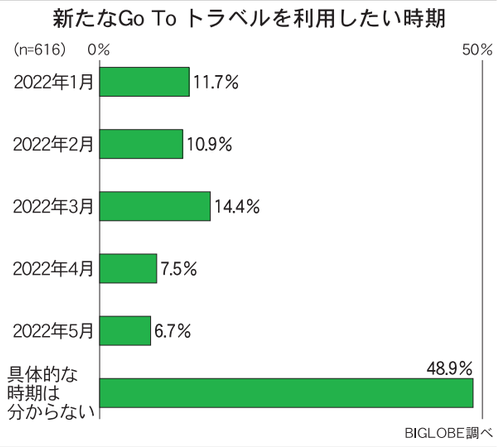
調査は、全国の20～60代の男女千人を対象として12月7、8日にインターネットで実施。「新たなGo Toトラベルを利用したいか」を質問したところ、「利用したい」が27・1％、「やや利用したい」が34・5％と、合わせて6割以上が「利用したい」と回答した。

年代別に見ると、30代は「利用したい」が23・0％「やや利用したい」が44・0％で、合わせて約3分の2が利用したいと回答した。

利用したいと回答した人に利用の時期について質問したところ、「具体的な時期は分からない」が最も多く、48・9％と半数近くとなった。次が「2022年3月」（14・4％）だった。

旅行したい場所は「温泉」が70・0％で1位。2位が観光地（52・8％）となった。20代に限ってみると、「テーマパーク・レジャー施設」が50・9％となり、全世代の29・9％を大きく上回った。





JAF宮崎支部　美郷町と観光協定締結

日本自動車連盟（JAF）宮崎支部は12月15日、宮崎市美郷町と観光協定を締結した。それぞれが有する資源を活用し相互に協力を行い、美郷町の観光振興を通じて、地域社会の発展と諸事業の拡充に寄与することを目的としたもの。

今後、JAF宮崎支部は美郷町の魅力を全国にPRするため、機関誌「JAFMate」やウエブサイト「宮崎のご当地情報」などの各種媒体を通じて、美郷町の観光地や特産品、祭りの情報などを発信する。また、美郷町を回遊するドライブコースをJAFナビ上で公開し、美郷町へのドライブ観光促進を図るとともに会員満足度の向上に努める。

JAF宮崎支部は、これまでに宮崎県内の高千穂町、日向市、えびの市と観光協定を締結しており、美郷町が4自治体目となる。

調印式の様子

商品・トレンド

竹内美樹の口福のおすそわけ 397

七草粥

新年2週号のテーマは、「七草粥」。本来朝ご飯として食べきらいが、わが家は朝の活動時間が皆まちまちなので、まぁそうカタイことは言わずに…と夕食時にいただく。1月7日は、関東ではまだ松の内。お正月気分が抜けずに、7日の夕方になって七草の買い忘れに気付き、急いで買いに行ったら既に売り切れで、違うスーパーに走ったなんてこともあった。

そうまでしても、やっぱり食べないと気が済まない。そもそも新たな1年の無病息災を願って食すモノだから、ちゃんと食べておかないと、何となくシアワセが遠のいてしまいそうな、不安な気分になる。でも、どうして1月7日じゃなきゃいけないの？と思い、改めて調べてみた。

日本には、節目の祝い事お節句がある。3月3日の上巳（桃の節句）、5月5日の端午、7月7日の七夕、9月9日の重陽は、今も祝う人が多い。元々「節供」と書いたそうで、神に供えたものを食す神人共食の儀式だった。江戸幕府がこれに1月7日の人日を加え、「五節句」と定めたという。

1月以外は、奇数の数字の重なる日。これは中国から伝わったもので、奇数は陽の数字とされ縁起が良いが、重なることで逆に不吉な日とされ、厄払いの日となったといわれる。1月1日だけは別格だから7日が取り入れられたそうだ。

一方、日本には古くから、「若菜摘み」という風習があった。百人一首にも「君がため春の野に出でて若菜摘む我が衣手に雪は降りつつ」という歌があるが、積もる雪を割って芽吹く若菜を食してその生命力を体内に取り入れることで、邪気をはらったのだ。

中国でも、人日の日に7種類の野菜を羹（汁物）にして食べ無病息災を祈る「七種菜羹」という習慣があり、これが日本に伝わり若菜摘みと融合して、春の七草を入れた七草粥を食して邪気をはらうという行事食が定着したとされる。

難しいことはさておき、おせち料理やごちそうが続き、飲み過ぎで疲れた胃袋に、七草粥はとても優しい。しかも、七草それぞれに体を助ける効能があるらしい。七草の種類は地域によって異なるが、一般的な物を効能と共に挙げてみる。

芹…健胃効果、解熱効果。薺…利尿、止血作用。御形…鎮咳、去痰。繁縷…胃炎改善、歯槽膿漏予防。仏の座…解熱、鎮痛。菘…カブのこと。消化促進。蘿蔔…大根のこと。胃もたれ・胸やけの解消・発がん抑制作用。

スゴイぞ、七草！　実は七つ全てが生薬としても使われているのだ。無論、薬効を期待するなら天日干しにしたり煎じたりする必要があるし、七草粥に入っている程度じゃ効かないだろうが、体に良い植物であることは間違いない。それを、人を大切にするという意味のある「人日の節供」にいただいて無病息災を祈れば、怖い物ナシだ！

行事食には、やっぱりワケがあった。先人が遺してくれた文化を後世に伝えていかなければ。でもその前に、まずは買い忘れに気をつけなくっちゃ！

※宿泊料飲施設ジャーナリスト。数多くの取材経験を生かし、旅館・ホテル、レストランのプロデュースやメニュー開発、ホスピタリティ研修なども手掛ける。

WEBマーケティング

インターネット徹底集客 第275回

2022年のホテル旅館業界の予測

前号では2021年の振り返りを行ったが、今号では、これからのホテル旅館業界について述べたいと思う。例年通り多分に主観が入った内容ではあるが、ご容赦いただきたい。キーワードは今年も三つに絞り、「付加価値化」「SNS」「直販化」としたい。

まず付加価値化であるが、端的に言えば「ホテル旅館に付加価値（＝魅力）を付けて価格競争から抜け出して、旅行者に選ばれる施設になろう」ということである。当たり前のことであるのだが、このことの重要性が増す。再三述べてきたが、アフターコロナでは個人旅行＆オンライン旅行が主役となるため、旅行者に選ばれる施設になることが極めて大事になる。

昨年度からの観光庁の支援策を見ても、「高付加価値化」という文言がそこかしこで使われている。来年度も同様の支援策が行われるので、自施設の高付加価値化に向けて、何が有効になるのかを改めて考えることが重要である。

次にSNSであるが、20代や30代の方にとっては当たり前のツールであるが、ご年配の旅館ホテル経営者にとっては未知の領域となる部分もあるかもしれない。しかしながら、今後の消費者動向としては外せないので、ぜひともご理解をいただきたい。既に20代や30代の中では、GoogleやOTAではなく、Instagramから旅行を探すという層が存在していると。従って、SNSマーケティングをきちんと実施しないと若い世代を取り込めない可能性が生まれてくる。

また、SNSは付加価値化とも相性が良い。魅力的な付加価値化に成功した宿は、旅行者自身が発信者となり、そのコンテンツについてSNSを通じて発信してくれるようになる。すると、拡散効果により集客することができるようになるという好循環になる。

最後に直販化であるが、その名の通り自社直接販売の強化である。これまでにもホームページでの予約取り込みなど多くの施設が取り組んできた事項であるが、前述のSNSと組み合わせてさらなる強化が可能となる時代が到来する。

本号で全て記載することも難しいので、各項目については追って詳細は掘り下げていきたいと思うが、アフターコロナを迎えるにあたり新たな局面を迎えていることは疑いようがない。

（アビリブ・プライムコンセプト取締役　内藤英賢）

＝隔週連載

本だな

一九四〇　命の輸送
安田亘宏　著

1940年春、ジャパン・ツーリスト・ビューローに入職して2年目の浅田海は、ニューヨーク事務所への赴任命令を受け、太平洋を越え米国大陸にやってきた。米国ユダヤ人協会からビューローへ協力を要請する一本の電話をきっかけに、海は壮大な運命に巻き込まれてゆく……。

ユダヤ人難民救出の輸送業務に携わった者たちの物語。「命のビザ」を手に必死に逃げ延びたユダヤ人の果てしない旅路の陰には、使命に燃える若きビューロー職員たちの尽力があった。

JTBの社史に想を得て描いた創作。著者の安田氏は旅の創造研究所所長で、元JTB旅の販促研究所所長。観光関連図書の25冊目にして、初めての小説。

発行は彩流社。定価は2800円（税別）。